

一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 福祉のまち・浜田の実現のための戦略について

(1) 「農福連携」推進に対する今後の方向性について

「農福連携」は障がい者等の農業分野での活躍を通じて、障がい者の自信や生きがいを創出し社会参画を促す取組である。「農業・農村における課題」と「福祉における課題」双方の課題解決と利益が期待できる政策で近年大きな注目を集めている。

- ① 今後農業就労人口の減少の解決策としても、「農福連携」の実践は充実した福祉社会の実現に大きな力となると考えるが、「農福連携」の取組を市長はどう評価するか問う。
- ② 「農福連携」の取組形態として、農業経営体による障がい者の雇用、障がい者就労施設による農業参入や作業受託等多岐に渡っている。当市においても既に「農福連携」の実践事例もあるが、この施策を推進する場合の課題を含め方向性について問う。

(2) 今後の福祉人材確保対策について

少子・高齢化社会の進展により福祉サービスに対する需要の増大・多様化が見込まれ、福祉に携わるマンパワーの育成・確保は喫緊の課題である。離職率が高いと言われる福祉業界、外国人の参入等の動きもある中で、国も、近年「新人材確保指針」を告示して人材確保に力を注いできたが、現状は極めて厳しい人材難と認識している。

- ① 現時点で市として介護を必要としている数と、それに対応する福祉人材の必要数をそれぞれどの程度試算しているか問う。
- ② 福祉のまち・浜田の実現ためには、福祉人材育成・確保対策は福祉充実のための生命線となるのは明らかである。民間福祉施設独自の人材確保には限界があり、行政の福祉人材確保対策の取組が極めて重要と感じている。当市が行うべき福祉人材育成・確保の今後の取組方針について市長の考え方を問う。

(3) リハビリテーションカレッジ島根の再生について

- ① 福祉人材の育成という観点からすると、リハビリテーションカレッジ島根の存在は大きいと考える。創立当初は西部に設置された貴重な福祉人材育成施設として、地域経済への貢献、地元に対する福祉人材の供給等、地元には様々な希望を与えてくれた。しかしながら、最近では入学生の大幅減少等の要因で、厳しい経営状況が継続している。浜田市として、同法人に支援を続けてきたが、この現況をどう分析しているのか市長の所見を問う。
- ② この法人の存続のため、令和3年度一般会計補正予算により経営改善支援補助金として1億円の財源を投じ高等教育の無償化の認定を受けた。その際経営改善の手法として学校法人大阪滋慶学園とのアドバイザリー契約をすることで今後の法人再生に期待できるとのことであった。施設再生のロードマップは順調に進んでいるのか市長の認識を問う。

2 文化資源の活用によるまちづくりの推進について

(1) 文化資源の代表である石見神楽振興の当面の課題について

- ① 今月12月9日に「石見神楽蛇胴製作技術」浜田市文化財指定記念式典が開催予定。全国に「石見神楽を生み出したまち・浜田」をアピールする絶好の機会となる。しかしこの石見神楽蛇胴の文化財指定も植田蛇胴店の後継者がいてこそ価値があるもので、文化財指定を行った浜田市として後継者育成のための支援が必要ではないか所見を問う。
- ② 市長は様々な機会を捉え、「神楽伝承館」の設置に関する発言をされている。インバウンド対策も含めた観光戦略上、また伝統文化振興の観点からも、必要不可欠と認識しているが、設置場所の議論が前面に出て本来議論されるべき機能面に関する議論が後回しになっている感があるが、市長の所見を問う。
- ③ 現在石見神楽は、文化継承・観光振興等の複数部署で取り扱われている。以前から提言しているが、石見神楽の総合的な戦略部署として「石見神楽振興室」を設置して石見神楽の郷構想を推進していく考えはないか、改めて市長の所見を問う。

(2) 文化資源を連動させた観光モデルの策定について

- ① 今まで浜田市として「海」「海産物」「神楽」「温泉」等を組み込んだ旅行パッケージは多数存在している。最近では日本遺産認定を受けた「外ノ浦 北前船」「石見神楽」やユネスコ遺産の「石州半紙」、温泉総選挙うる肌部門日本一に返り咲いた「美又温泉」、そしてブータンとの交流拠点「世界こども美術館」等、文化資源が大きく評価されている。単独ではなくこの素晴らしい文化資源を連動させた観光モデルを本気で考えてみる必要があると考えるが市長の所見を問う。